

## 「地球市民として生きる」

目黒区立第二中学校 三枝利多

## 7 はじめに

第4部の「地球市民として生きる」は、学習指導要領の大項目(3)「現代の民主政治とこれからの社会」、中項目ウ「世界平和と人類の福祉の増大」の内容に対応している。

そこで、第4部は公民的分野のまとめとしてだけでなく、中学校社会科全体のまとめとして位置づける必要がある。さらに、第3章は第4部の学習のまとめとして配列されているため、生徒自身の態度化・行動化にまで、意識を高めていくことが目標とされる必要がある。

そのため、実際の授業の中では第3章だけの単独の授業展開を考えるよりも、第4部全体の授業展開の中での展開を考えていく方が有効である

国際社会に関する意識調査 3年( )組 男・女  
 ※選択肢が、文章ではなく、番号だけしか書いていない質問は、すべて次のような区別  
 考えて、番号に○をつけてください。  
 [A-そう思う B-少しそう思う C-あまりそう思わない D-そう思わない E-わからない]  
 ※その他を選んだ人は、すべて( )の中に、簡単にいいので内容を書いてください  
 事前調査の結果→事後調査の結果

- 1 あなたは外国でのできごとや諸問題を、身近なものと感じますか。  
 ※A 7→34 B 27→17 C 36→17 D 5→1 E 5→3
- 7 日本のいろいろな企業が世界の各地に工場や支店をつくり活動しています。こうした日本企業の世界進出についてどう思いますか。  
 A 日本企業の利益になるので、良いと思う。  
 B 相手国の経済発展や人々の生活の向上に役立つのでよいと思う。  
 C 現地の人々の反感を招くと思う。  
 D 日本国内の産業が衰退すると思う。  
 E わからない F その他 ( )
- 8 国連について、国連が国際紛争を解決する機関として、どのような役割をはたしていると、あなたは考えますか。  
 A 国際紛争を平和的に解決する手段としてとても重要な働きをしている。27→43  
 B 国際紛争を平和的に解決する手段としては有効に働いていない。15→11  
 C 国際紛争を軍事的に解決する手段として必要である。10→12  
 D 国際紛争を軍事的に解決する手段としては有効に働いていない。1→2  
 E よくわからない。18→6 F その他 0→1 ( )
- 9 日本の国連での立場について、あなたはどのように考えますか。  
 1 もっと責任ある立場につくべきである。37→44  
 2 今のままでよい。15→18  
 3 国連にあまりこだわらなくても良い。11→6  
 4 あまり考えたことがないからわからない。18→3  
 5 その他 0→1 ( )
- 12 あなたは、さまざまな問題の解決のために、今後、国際協力は必要だと思いますか  
 ※A 54→62 B 18→11 C 0→0 D 1→0 E 5→3
- 14 どんな面の国際協力が必要ですか。(必要だと思うもの2つ以内)  
 A P・K・OやP・K・Fなどで地域紛争などの解決のための協力 37→22  
 B O・D・Aなどの資金援助 16→14  
 C 海外青年協力隊などの人的・技術的援助による協力 22→54  
 D 外国人労働者を受け入れるなどの協力 7→6  
 E 地球環境保護の面での協力 52→37  
 F わからない 5→0 G その他 0→0 ( )

と考えている。

## 2 指導事例の流れ

前述の通り、第3章だけの展開ではなく、第4部全体の展開の中で第3章をまとめの授業として展開した場合、次のような流れを考えた。

まず、導入として、第1章・第2章の内容に関して興味・関心ごとに調査・発表を行い、展開の段階において討論を工夫し、まとめの段階において、生徒の態度化・行動化につなげるための学習活動を工夫するような流れを設定した。

なお、生徒の状況や変化を把握するために、事前と事後の意識調査を実施することとした。

以下、意識調査の一部と指導計画の概要について、記しておきたい。

- 15 世界の国々との関係で、日本がさらに力を入れた方がよいと思うものは何ですか。  
 (3つ以内)  
 A 外交の活発化 15→15 B 経済関係の強化 21→25  
 C 地域的な戦争の防止や解決 36→30 D 民間の交流 7→16  
 E 環境保護への協力 55→54 F 文化交流 22→21  
 G 外国人労働者の受け入れ体制の整備 22 20 H 戦争の責任に対する補償 9→5  
 I その他 0→0

- 17 日本が国際協力を行ううえで、力を発揮する主体は、どのようなところだと思いますか。  
 A 国連 18→17 B 政府 22→14 C 民間の団体 3→14  
 D 一人一人の国民 26→31 E わからない 7→1  
 F その他 0→0 ( )

- 18 あなたは国際協力としてどんなことができると 생각합니다。

事前 「わからない」「何もできない」「ゴミなどの環境問題に協力する」 「ユニセフ募金などに協力する」「力を合わせる」など
事後 「募金に協力する」「リサイクルなどの環境保護への協力」 「他国の文化や習慣への理解」「ボランティア活動」「差別をなくす」など

- 19 これからの国際社会で生きていくために、今の生活において大切だと思うことを答なさい。  
 ① 外国語を話せるようになる。  
 ※A 36→38 B 27→30 C 13→3 D 3→2 E 0→1  
 ② 相手の国の文化だけでなく、日本の文化について理解を深める  
 ※A 35→38 B 31→28 C 10→8 D 0→1 E 1→0  
 ③ 差別や偏見をなくし、だれとでも仲良くする。  
 ※A 48→53 B 20→18 C 5→4 D 0→0 E 2→0  
 ④ 自分のことだけでなくまわりにいる人のことも考えて行動する。  
 ※A 52→58 B 15→16 C 3→0 D 4→0 E 3→1  
 ⑤ 自分の考えをはっきりと主張する。  
 ※A 51→55 B 19→16 C 7→2 D 0→0 E 0→0

- 20 国際社会の学習で学習したいことは何ですか。  
 A 日本に住む在日外国人や外国人労働者にかかわること 12→7  
 B 国際社会における経済発展のあり方 9→4  
 C 世界で起きている戦争や紛争の原因や様子のようす 22→15  
 D 国際社会における日本の国際協力のあり方 9→11  
 E 国際社会において、これから、私たち一人一人ができることについて 26→36  
 F よくわからない 3→0 G その他 0→1 ( )

【指導計画】「地球市民として生きる」

時数	学習内容	おもな学習活動	教師の支援と留意点	評価
1 ～ 2	○国際社会の課題の現状	○事前意識調査を実施しておく。 ○各グループごとに、国際社会のさまざまな課題を選択して調査する。 《課題例》「国連の平和へのかかわり」 「民族紛争の原因と現状」 「軍縮への努力」 「難民問題を解決するために」 「資源・エネルギー・環境問題」 「南北問題を解決するために」など	○前時までにグループごとの課題を決定し、資料収集を指示しておく。 ○教師側でも資料の準備をしておく(岩波新書、岩波ブックレットシリーズは有効)。	〈関〉国際社会の課題に関心をもちることができたか。 〈関・知・思〉国際社会の課題を、主体的に追究することができたか。
3	○国際社会の課題の現状	○グループごとに課題に対する調査結果を発表し、質疑応答する(ポスターセッションなど)。 ○発表後に、各グループが、課題ごとに国際社会の向上のための提言を行う。 《提言例》「国連の改革が必要である。」 「先進国は途上国の経済に貢献すべきである。」など	○簡潔に発表させ、質疑応答と提言の時間を確保させる。	〈知・資・思〉調査した課題について、有効な発表をすることができたか。
4	○国際社会での日本の役割	○「地球市民として生きる」視点から、各グループが行った課題調査や提言にふさわしいクラスの統一テーマを討議し、一つにしぼる。 《テーマ例》「国際社会で日本はどうすべきか」 ○パネルディスカッションのために、それぞれのグループがどのような立場になるかを決定する。 《立場の例》「先進国の代表」「途上国の代表」「NGOの代表」など ○パネルディスカッションの準備を行う。	○各グループの提言をもとに、適切な統一テーマが決定できるように、生徒の進行役を補佐する。	〈関・知・思〉国際社会のさまざまな課題について、新たな関心や課題意識をもつことができたか。
5	○国際社会での日本の役割	○統一テーマについて、それぞれの立場からパネルディスカッションを行う。 《テーマ例》「国際社会で日本はどうすべきか」 《立場の例》「先進国の代表」「途上国の代表」「NGOの代表」など ○発表(討論)をへて、課題についての疑問点や解決にむけての意見をまとめる(次時での質問にもつなげる)。	○生徒の進行役を補佐する。  ○次時へのつながりに配慮する。	〈関〉それぞれの立場の意見を聞くことができたか。 〈知・思〉それぞれの立場を考えて討議できたか。

① 題をちどまって考えてみよう ⑥ ～アジアの人々とともに生きる

1971年  
・バングラデシュ独立。独立戦争のため国のすべての機能が混乱し、困難に直面  
・「バングラデシュ復興農業奉仕団」として50人の日本の若者が小型耕耘機を使つての復興協力に従事

1972年  
・帰国した奉仕団の有志が「ヘルプ・バングラデシュ・コミティ(HBC)」を結成(現在のシャプラニールの前身となる)

あ、またこわれた!




① 農作業をする男性

帝国書院『中学生の公民(最新版)』p.176


6	○国際協力の現状  ○国際社会の課題追究の深化	○本時の進め方について聞く。 ○国際協力の経験をもつ方々の自己紹介を聞く。 ○グループごとに、講師の方々から国際協力の実際の状況を伺う。 ○状況を伺ったうえで、予め用意したものも含め疑問点や質問を整理する。 ○整理した疑問点などについて、意見交換を行う。 ○意見交換を終え、自分たちの課題追究について補充すべき点や修正すべき点がないか検討する。	○ワークショップの形式的な形式をとり、体験的な交流(意見交換)を行う。 ○ワークショップ形式の意見交換によって、課題を揺さぶられたり、深めさせたり、新たな課題意識をもたせたい。	〈関〉国際協力の経験をもつ方々と意欲的に意見交換することができたか。 〈思〉国際協力の経験をもつ方々との意見交換によって、課題が深められたか。
---	-------------------------------	---	---	--

7	○国際社会の課題の解決 ○一人ひとりの国際貢献	○第4時と第6時の学習から、自分たちの課題追究について、補充すべき点や修正すべき点を整理し、修正発表する。 ○国際社会のさまざまな課題の解決に向けて、自分たちが行動を起こせる内容を検討する。 ○自分の行動を決定し、ワークシートに記入する。《行動の例》「将来ボランティア活動に参加する」「NGOに参加する」など ○事後意識調査を実施する（後日提出も可）。	○各自で考えられるように助言する。 ○中学校社会科のまとめとして、各自に自覚をもたせる。	〈思〉課題に対する補充点や修正点を考えることができたか。 〈関〉主体的に自分の行動化について考えられたか。
---	----------------------------	---	---	--



**考えてみよう**

～地球市民としてあなたができること



◎中学校の学習を終えるにあたって、地球規模で解決しなければならないさまざまな課題に対して、あなたができることをあげてみましょう。

課題	いまできること	近い将来できること (10代後半～20代前半)	将来できること・やってみたいこと・夢
地球環境			
資源・エネルギー			

帝国書院『中学生の公民（最新版）』p.175

### 3 考察

授業後の結果から、生徒の態度化・行動化へつなげることができたかについて考えてみる。

たとえば、事前・事後意識調査による生徒の意識の変容を見てみる。事前・事後の意識調査の1「あなたは外国のできごとや諸問題を、身近なものと感じますか。」という項目に関しては、事前意識調査（回答総数80名）で「そう思う。すなわち、身近に感じる。」と答えた生徒は7名にとどまり、「あまりそう思わない。」と答えた生徒は36名に達した。これに対して、事後意識調査（回答総数76名）では、39名が「そう思う。すなわち、身近に感じる。」と答え、「あまりそう思わない。」と答えた生徒は、17名に減少した。

また、意識調査の18「あなたは国際協力としてどんなことができますか。」という項目に関しては、事前意識調査（回答総数80名）の段階では13名が「わからない」と答え、3名が「何もできない」と答え、さらに16名が未記入であった。しかし、これに対して、事後意識調査（回答総数76名）では、「わからない」「何もできない」と答えた生徒はいなくなり、さらに未記入の生徒も、6名に

減少した。

次に、ワークシートを通して、以下のような生徒の記述が見られた。

今できることを、一つ一つ解決していく。

私たち一人ひとりが、なにかをやらなくてはいけない。

僕は、この国際社会の学習を生かして、将来国際協力に積極的に参加していきたい。

将来、青年海外協力隊に参加したい。

NGOに参加して、途上国の子どもの里親になりたい。

ボランティア活動を盛んにしていきたい。

将来、難民への援助活動を行っていく。

募金に協力する。

リサイクル等、環境保護へ協力する。

他国の文化や習慣への理解や差別をなくす。

積極的に海外に目を向けていく。

常に、国際協力を念頭において行動していく。




以上のような結果からも、第3章の授業展開は、第4部全体の展開の中で進めていくことが、中学校社会科のまとめとして、有効な授業のしめくくり方となるのではないかと考えられる。